



SDGs

未来のために私たちができること ～SDGs未来都市南阿蘇村～

2022年5月20日付で、南阿蘇村は内閣府選定のSDGs未来都市に選定されました。
誰もが一度は耳にしたことがあるSDGs (エス・ディー・ジーズ) という言葉について特集で紹介します。



写真右、野田地方創生大臣

「SDGs未来都市」に選定された都市の皆様へ

令和四年度「SDGs未来都市」の選定にあたり、数多くの自治体の皆様から素晴らしい提案を頂いたことに、心より感謝申し上げます。

我が国では、「SDGsアクションプラン2022」を策定し、全ての人が生きがいを感じられる、新しい社会の実現に取り組んでまいります。

経済・社会・環境の問題に対して包括的に取り組むSDGsの理念は、このような新しい社会を目指す上で重要な羅針盤となるものであり、地方創生の実現に大いに寄与するものであります。

社会課題の解決を新たな成長の源泉とし、持続可能な経済社会を創り上げていく「新しい資本主義」の主役は地方です。

政府では「デジタル田園都市国家構想」を推進し、デジタルの力で社会課題を解決し、地方から全国へのボトムアップでの成長を実現するとともに、自治体の皆様と共に、地域の活性化につながる持続可能なまちづくりを推進してまいります。

「SDGs未来都市」に選定された皆様の創意工夫にあふれた取組に心より敬意を表すると共に、多様な地域の特性を活かした成功事例が国内外に広く共有され、SDGsの達成と地方創生の実現に向けた大きな力となることを期待し、今回選定された自治体の全ての関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

令和四年五月二十日

内閣総理大臣

岸田文雄

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

南阿蘇村はSDGs未来都市です

Q1 SDGs (持続可能な開発目標) ってなに？

Sustainable Development Goals

↳ 持続可能な

↳ 開発

↳ 目標

SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標で、標語となる「持続可能な開発目標」英語で記した際の「Sustainable Development Goals」のそれぞれ単語の頭文字などを取って作った造語です。

2015年の国連サミットにおいてすべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、貧困や不平等・格差、気候変動などの問題を解決する17の(目標)ゴールと、より具体的な行動内容を示す169のターゲットから構成されています。

Q2 17の目標と169のターゲットってなんのこと？



カラフルな17色のロゴマークが目を引きまます。このマークにはそれぞれ全人類が目指すべき目標が書かれています。また、それぞれの17の目標の下に複数のターゲットがあり、それが169のターゲットとなります。

目標は、「16.平和と公正をすべての人に」などの世界全体の平和に向けた問題の解決、「8.働きがいも経済成長も」などの誰もが豊かになるための取り組み、「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」などの地球環境を守るための諸問題の解決など多岐にわたります。

17の目標はすべてが関係しているため、どれか1つでも欠けると最終的な目標達成になりません。そのため、1人の力、1つの団体企業の力でこれらすべてを達成しようとするのは大変困難です。一番最後にある17番目の目標「17.パートナーシップで目標を達成しよう」にあるように、すべての人が協力しあってこそ達成できる目標なのです。



Q3 SDGsの17の目標と課題について詳しく教えて

SDGsの17の目標の詳しい現状や課題(一部)について紹介します。

1 貧困をなくそう



目標1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

- 全世界で10人に1人(7億8,300万人)が1日1ドル90セント(約230円)の所得で生活しています。
- 全世界で5歳未満の子どもの4人に1人が、年齢に見合う身長に達していません。

2 飢餓をゼロに



目標2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

- 現在、世界人口の9人に1人(8億1,500万人)が栄養不良に陥っています。
- 栄養不良が原因で死亡する5歳未満の子どもの年間310万人と、子どもの死者数のほぼ半数(45%)を占めています。

3 すべての人に健康と福祉を



目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

- 毎年500万人を超える子どもが、5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。
- 開発途上地域の妊産婦死亡率(出生数に対する妊産婦死者数の比率)は、先進地域の14倍に上ります。

4 質の高い教育をみんなに



目標4 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

- 5,700万人の子どもが学校に通っていません。
- 全世界で6億1,700万人の若者が、基本的な算術と読み書きの能力を欠いています。

5 ジェンダー平等を実現しよう



目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

- 女性と女児の5人に1人は、最近の12カ月以内に親密なパートナーから身体的および/または性的暴力を受けています。
- 全世界で女性の政界進出がかなり進んでいるものの、女性国会議員の割合は23.7%と、男女同数にはまだ程遠い状況にあります。

6 安全な水とトイレを世界中に



目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

- 世界人口の10人に3人は、安全に管理された飲料水サービスを利用できず、10人に6人は、安全に管理された衛生施設を利用できません。
- 毎日、1,000人近い子どもが予防可能な水と衛生関連の下痢症で命を落としています。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

- 世界人口の13%は、依然として現代的電力を利用できません。
- エネルギーは気候変動を助長する最大の要素であり、全世界の温室効果ガス排出量の約60%を占めています。

8 働きがいも経済成長も



目標8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する

- 世界的な男女の賃金格差は23%であり、決定的な対策を取らなければ、賃金平等の達成にはさらに68年を要する計算になります。男性の就労率94%に対し、女性の就労率は63%に止まっています。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



目標9 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

- 多くの開発途上国では依然として、道路や情報通信技術、衛生施設、電力、水道といった基礎インフラが整備されていません。

10 人や国の不平等を
なくそう



目標10 各国内及び各国間の不平等を是正する

- 20%の最貧層世帯の子どもは依然として、20%の最富裕層の子どもに比べ、5歳の誕生日を迎える前に死亡する確率が3倍も高くなっています。
- 障がいを持つ人々が極めて高額な医療費を支払わねばならない可能性は、平均の5倍にも上っています。

11 住み続けられる
まちづくりを



目標11 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する

- 面積にして地球の陸地部分のわずか3%にすぎない都市は、エネルギー消費の60から80%、炭素排出量の75%を占めています。
- 急速な都市化は、真水供給や下水、生活環境、公衆衛生に圧力を加えています。

12 つくる責任
つかう責任



目標12 持続可能な生産消費形態を確保する

- 2050年までに世界人口が96億人に達した場合(人口予想数値)、現在の生活様式を持続させるためには、地球が3つ必要になりかねません。
- 毎年、生産される食料全体の3分の1に相当する13億トン、価値にしておよそ1兆ドルの食料が、消費者や小売業者のゴミ箱で腐ったり、劣悪な輸送・収穫実践によって傷んだりしています。

13 気候変動に
具体的な対策を



目標13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

- 海水温が上昇し、雪氷の量が減少した結果、海面が上昇しています。1901年から2010年にかけて、温暖化で海洋が広がり、氷が融けることで、世界の平均海面は19センチメートル上昇しました。
- 全世界の二酸化炭素(CO₂)排出量は1990年以来、50%近く増大しています。

14 海の豊かさ
を守ろう



目標14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- 海洋は地球の表面積の4分の3を占め、地球の水の97%を蓄え、体積で地球上の生息空間の99%を占めています。
- 沿岸水域は汚染と富栄養化によって劣化しています。協調的な取り組みをおこなわなければ、沿岸の富栄養化は2050年までに、大型海洋生態系全体の20%で進むものと見られています。

15 陸の豊かさ
を守ろう



目標15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- 毎年、干ばつと砂漠化によって1,200万ヘクタールの土地が失われています。これは1年間で2,000万トンの穀物が栽培できる面積に当たります。
- 確認されている8,300の動物種のうち、8%が絶滅し、22%が絶滅の危機にさらされています。

16 平和と公正を
すべての人に



目標16 公正、平和かつ包摂的な社会を推進する

- 紛争被災地域には、小学校就学年齢で学校に通っていない子どもがおおよそ2,850万人います。
- 有罪判決なしに拘禁されている受刑者の割合は最近の10年間、受刑者全体の31%を占め、ほぼ横ばいとなっています。

17 パートナシップで
目標を達成しよう



目標17 持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化させる

- アフリカのインターネット利用者は、過去4年間でほぼ2倍に増えました。
- 40億人以上がインターネットを利用できておらず、しかもその90%は開発途上地域に暮らしています。

Q4 SDGs って「私」に関係あるの？

世界規模の目標と聞くと、「国や県、大きい市や大企業が取り組むこと」と思い、なかなか自分事を感じることができないかもしれません。しかし大事なのは小さくとも「私たち一人ひとり」が主体となって取り組むことです。

日本をはじめ、多くの国で実施されている「レジ袋の有料化」ですが、その先進事例の1つとして以下のような話があります。

インドネシアのバリ島において当時12歳と10歳だったメラティ・ワイゼンさんと妹のイザベルさん姉妹が、自分が生まれ育った美しいビーチがビニール袋などのプラスチックごみで溢れていることに心を痛めて始めた「バイバイ・プラスチックバッグ」という市民活動が多くの人の心を動かしてどんどん拡大し、やがて政府をも動かしてビニール袋などのプラスチック製品の使用を禁止するまでに至りました。

今は世界全体の問題かもしれませんが、いずれこのままでは私たちやこれからの未来を生きる私たちの愛する人々にとっては自分の問題(当事者)となってしまうかもしれません。すべての人が今とこれからの問題や課題を「当事者」として考え、行動することが目標達成(Goals)に向けた鍵になります。



Q5 私たちにできることを教えて

SDGsの達成のためには世界中の一人ひとりが行動することが大切です。しかし、いきなり難しいこと・大変なことを始めようとしても長くは続かないもの。

そこで「ナマケモノにもできるアクション・ガイド(国連広報センター引用)」の一部を用いて、誰もが気軽にできるSDGsの取り組みを紹介します。



レベル1 ソファに寝たままできること



- 電気を節約しよう。電気機器を電源タップに差し込んで、使っていない時は完全に電源を切ろう。
- 声を上げよう！ あなたが住んでいる町や国に、人と地球にやさしい取り組みに参加するよう呼びかけよう。

レベル2 家にいてもできること



- 窓やドアの隙間をふさいでエネルギー効率を高めよう！
- エアコンの温度を、冬は低め、夏は高めに設定しよう！
- 古い電気機器を使っていたら、省エネ型の機種や電球に取り替えよう！

レベル3 家の外でできること



- 買い物は地元で！ 地域の企業を支援すれば、雇用が守られるし、長距離トラックの運転も必要なくなる。
- 「訳あり品」を買おう！ 大きさや形、色が規格に「合わない」という理由だけで、捨てられてしまうような野菜や果物がたくさんあるよ
- 詰め替え可能なボトルやコーヒーカップを使おう。無駄がなくなるし、コーヒーショップで値引きしてもらえらることも！
- 買い物にはマイバッグを持参しよう。レジ袋は断って、いつもマイバッグを持ち歩くようにしよう。

レベル4 職場でできること



- 職場で差別があったら、どんなものであれ声を上げよう。性別や人種、性的指向、社会的背景、身体的能力に関係なく、人はみんな平等だから。
- 日々の決定を見つめ直し、変えてみよう。職場でリサイクルはできている？ 会社は、生態系に害を及ぼすようなやり方をしている業者から調達をしていないかな？

Q6 村はどんな取組をしているの？



南阿蘇村は、3つの「K」である「環境」・「活力」・「暮らし」を村づくりの指針とし「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村」を目指してきた取り組みが認められ、今回の「SDGs未来都市」選定に至りました。

SDGsの理念に関連した、南阿蘇村が現在おこなっている取り組み、今後実施予定の取り組みなどを紹介します。

■経済面の取組

・有機農業の推進によるブランド化

2050年に有機農業の取組面積を農地面積の25%まで拡大するという「みどりの食料システム戦略」関連事業を活用しながら有機農業を推進する。

地産地消に向けた情報の収集と実証事業をおこない、村内で生産された農産物を村内の観光施設で活用するための仕組みを確立する。村内外の食品加工業者と連携して、農産物の加工による高付加価値化を進める。

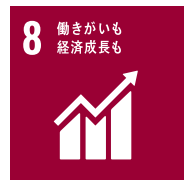
農作業体験のガイドを育成する。

・放牧環境の整備

既存の有畜農家が今後減少しないよう支援を継続するとともに、草原に牛を放牧しやすくなるような環境整備を推進し、放牧頭数の増加を目指す。

・木材の利用拡大

加工・流通の合理化、低コスト化により、木材の利用拡大を図り、林業経営の安定化を目指す。



■社会面の取組

・移住・定住の推進

空き家、空き地バンクの登録推進、お試し移住体験の実施、移住のための住家建設補助などの実施により、移住・定住を促進する。

・地域資源を生かした子育て環境整備

子育てを地域づくりの核と捉え、地域全体

で子どもを育てていこうという意義の啓発を図り、地域住民一人ひとりが一体となった子育てを目指す。雄大な南阿蘇の自然や文化、歴史など様々な地域資源を活かした教育を推進するとともに、世代間交流、子ども会活動等の充実を図ることで、子どもが心豊かに、たくましく育つよう支援する。



■環境面の取組

・草原の保全

熊本地震以降、野焼き面積が縮小している。野焼きの継続及び拡大に向けた、対策を検討する。

・再生可能エネルギーの導入

公共施設などの屋根や敷地を有効活用し、ソーラーパネルの設置を推進する。民間企業による南阿蘇村の地域資源(河川、地下水、地熱・温泉・地下水熱、森林バイ

オマスなど)を活かした再生エネルギーを開発・利用を積極的に推進する。薪供給体制の整備、伐出跡地の適正管理など木質バイオマスのエネルギー利活用の促進を図るための検討をおこなう。加えて、家庭用木質バイオマス燃焼機器導入の支援を実施する。



お知らせ 「SDGs未来都市 南阿蘇村」オリジナルロゴマーク募集

南阿蘇村がSDGs未来都市として選定されたことに伴い、今後取組を推進するうえでシンボルとなる「SDGs未来都市 南阿蘇村」のオリジナルロゴマークのデザインを募集します。日本全国にお住まいの人ならどなたでも応募可能で、また手書き作品でも大丈夫です。多くのご参加をお待ちしています。

なお、応募詳細につきましては、村ホームページの応募ページをご確認いただくと共に、同ページの応募フォームよりご応募をお願いします。

■採用作品／賞金5万円と特産品 ■問い合わせ先／政策企画課 TEL0967 (67) 2230

